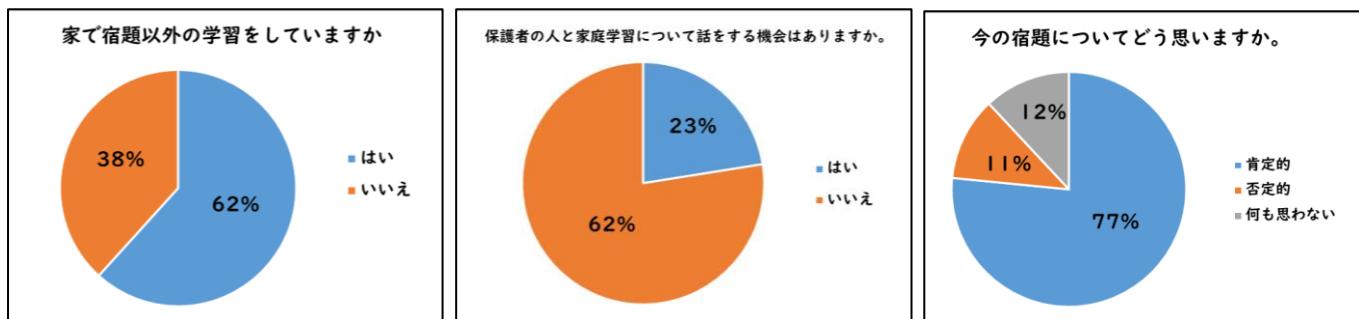


第3回主題研アンケート 分析結果（2月実施分）

【家庭学習について】

生徒の現状

- すべての学年において、2学期からは教科からのプリントや生徒自身が必要だと感じるものを宿題として取り組むという方法を実施しているが、肯定的な意見が多い（全体の7割超え）。
- その中でも、「自分たちで自主的に考えられる」「自分で考えるようになった」「自分に合った学習できる」「自分で選択できることが良い」といった、自分で主体的に考え、取り組めるから良いという理由で、肯定している生徒が前回よりも増え、全体の4割である。特に2・3年生に多く、1年生でもわずかではあるが、このような意見が見られた。
- 他にも「テスト前には宿題の量を減らしてほしい」「教科によって差がある」といった意見も見られた。
- 宿題以外の学習に取り組んでいる生徒が全体の6割、「家で宿題について話す機会がある」と答えた生徒が全体の2割で、前回のアンケート結果から大きな変化はなかった。

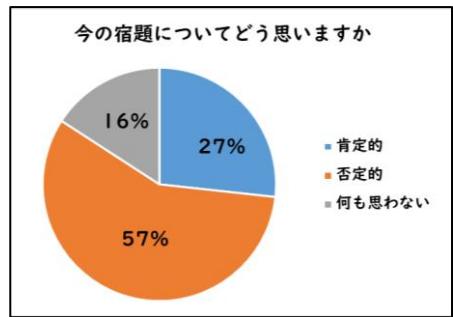
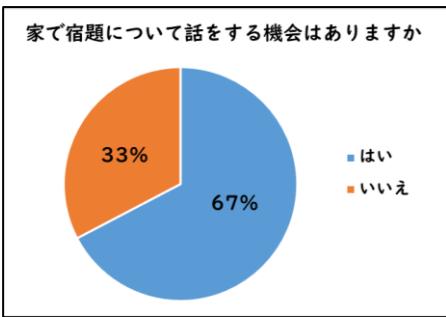
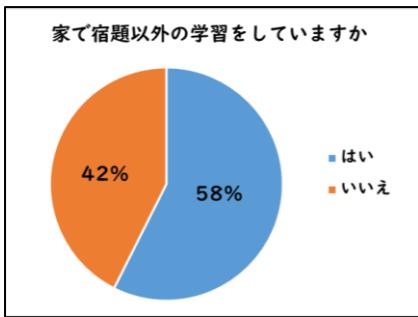


考察

- 前回のアンケートから、宿題以外の学習をしている生徒の割合はあまり変化がないが、自分で考えて取り組む学習の必要性について、理解が広がり行動に移すことができている。
- 肯定的な意見の内容に、前回と比べて、「自分で考えてする」という言葉が増え、学級担任を中心に生徒に伝えてきた成果が出ているといえる。引き続き、次年度も、「やればできる」という実感を伴って生徒が理解できるように、テストの結果の分析等を伝えられると良い。
- 家庭で宿題について話す機会はあまりないという実態は変わらないため、家庭と連携した指導をするための手立てを考える必要がある。

保護者の現状

- 全体的に今の高千穂中の宿題について、「少ないと感じる」「学力が身に付いているのか心配である」などの不安に感じている意見が全体の6割であった。
- 「家庭で宿題について話をする機会がある」と答えた保護者は全体の7割に迫る結果となった。
- 子供が家庭で宿題以外の学習に取り組んでいると答えたのは約6割で、前回のアンケート結果より高ポイント
- また、「今までいいのかよくわからない」「特に何も思わない」という意見も、前回のアンケートよりも多くなっていた。



考察

- 生徒の結果と逆になるものが多く、生徒と保護者の間で認識の差がある。
- 「宿題について話す機会」や「宿題以外の学習をしているか」については、どちらも数値が上がっているため、宿題に対する関心や生徒の取組に対する評価は高まっていると感じられる。



次年度に向けて

- 宿題に対する学校の指導内容や方法を引き続き発信し、保護者の関心を高め、学校と家庭が連携した指導ができるようにする。
- 学年ごとに、自分に必要な学習について知る機会をつくり、キャリア教育と関連付けて、自分で自分に必要な家庭学習を選択し、実行していく力を育成する。
- 宿題の効果や取組の成果について分析したものを、生徒に伝える機会を設ける。

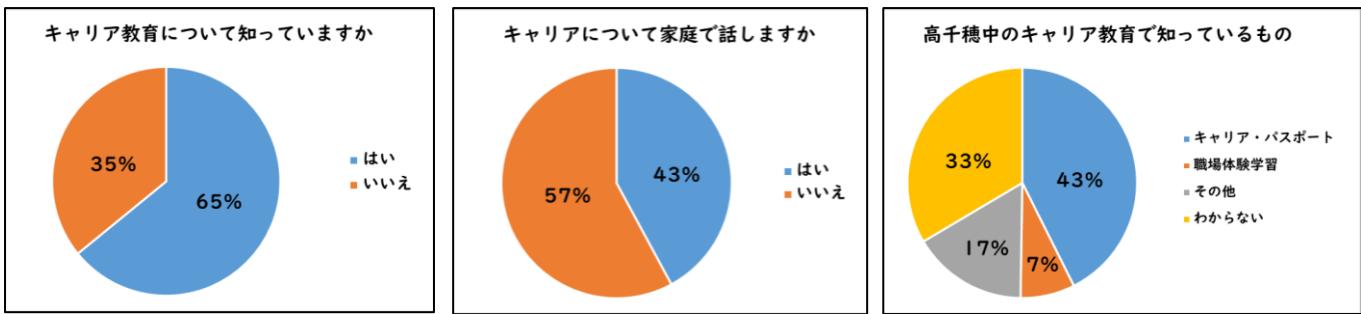
[進路学習について]

生徒の現状

- 1、2回目と比べて、「キャリアやキャリア教育について知っているか」という質問に対して、「はい」と答えた生徒が大幅に増加した。
- 「キャリアについて家庭で話をするか」という質問に対して、「はい」と答えた生徒は少し増加した。
- 本校が実施しているキャリア教育で知っているものについては、1回目から多かった「キャリア・パスポート」という答えはさらにアップし、それ以外にも各学年の取組や「教育相談」「水曜日の6時間目」「学校のすべての活動」など、回答の種類が増加し、全体的にキャリア教育に対する認知度が深まっている。

考察

- 一年間の活動を通じて、キャリア教育の認知度が上がり、家庭でもキャリアについて話す機会がある生徒が増えている。学校や学級担任の発信により、「キャリア」について考える機会が全体的に増加したといえる。
- キャリア教育については、「キャリア・パスポート」の内容の充実を徹底した結果が出たといえる。また、各学年の行事や講座も多かったことから、回答の中にも様々な内容が多かった。
- キャリア教育の認知度は高まっているものの、具体的な内容については「わからない」と答えた生徒もいるため、引き続き、日々の教育活動がキャリア教育につながっていることを発信していく必要がある。

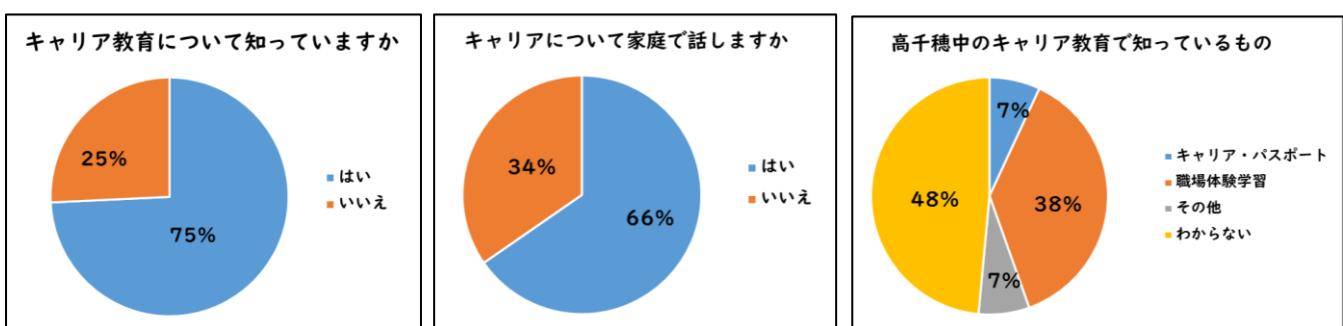


保護者の現状

- 「キャリアやキャリア教育について知っている」と答えた保護者が7割を超え、1、2回目よりも数値が上がった。
- 「家庭でキャリアについて話をする機会がある」と答えた保護者は6割を超え、3年生を中心に「将来の夢」や「進路」についての内容が多かった。
- 「高千穂中で実施しているキャリア教育はどのようなものがあるか」についての回答で「職場体験学習」一番多く、前回に比べて数値も上がったが、「わからない」と答えた割合は半数であった。

考察

- キャリアやキャリア教育に対する認知度が大きく上がったが、内容まで熟知しているかどうかは不明である。
- 約6割以上の家庭が、キャリアに関する話をする機会があることから、高校入試が近づくにつれ、あるいは、進路や様々な職業に関する学習があったことで、話をするきっかけになっていると考えられる。
- 生徒と同じく、学校で実施しているものがキャリア教育につながっているかどうかについては、更に発信が必要である。



次年度に向けて

- キャリア・パスポートを有効活用し、学級でキャリア・パスポート（行事前）を書かせる際に、各種行事や学習等とキャリア教育とのつながりについての指導を徹底し、保護者とも連携を図る。
- HPや通信等を使い、高千穂中学校のキャリア教育についての情報を発信する。